

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4099600118		
法人名	株式会社美咲カンパニー		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字川崎112番地 (電話) 0947-72-7950		
自己評価作成日	令和 8年 1月 10日	評価結果確定日	令和 8年 3月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症対応型の施設の為、入居者全員が認知症があるのが当然ということをも全職員が十分理解し、正しい知識と個々の生活歴等を理解したうえでの一人一人に合ったケアを実施している。また地域社会とのつながりを持てるため2カ月に1回認知症カフェを開催している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 8年 2月 5日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自然に囲まれた少し高台に事業所がある。四季折々の風景を感じる事が出来る。木造で温かい雰囲気であり、職員は家族同様に思える様に親身になり寄り添い支援を行っている。法人は近隣市外に介護事業を運営し、介護保険相談を受け付ける事が出来る。利用者が日々かがやいて生活できるように職員は明るく接して声掛けを行い、理念を実践している。認知症カフェを2か月に1度開催して地域からの参加を促し事業所の活用にも力を入れている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の皆様と明るく楽しく助け合い、今日も1日かがやく」という事業所独自の理念を前経営者から引き継いでいる。理念に沿って地域との関係を構築しており、地域密着型サービスとしての役割を果たしている。	「地域の皆様と明るく、楽しく、助け合い今日の1日かがやきましょう」を理念として掲げている。理念は事務所内や共有ホール、玄関前、廊下に掲示し職員が何時でも見ることができるようにしている。理念の唱和は、日中に職員と利用者と一緒に唱和している。実践にみんなで協力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているので、広報誌も届いている。職員も地域の人が多く地域との交流を図っている。	自治会に加入している。川崎町「川崎新聞」は自治会の組長が持参している。事業所のパンフレットは、地域掲示板に掲示する事もあり、事業所内の活動も公表している。2か月に1度認知症カフェを開催し、地域住民に声をかけて事業所に遊びに来られるように活動を継続している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人たちがいつでも相談に来れるような雰囲気づくりをしている。また令和7年7月から認知症カフェを2か月に1回開催して地域の方々の交流の場を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者様がより良い生活の場としていけるために、施設の現状報告実施している。またご家族、民生委員、有識者、区長等の意見交換や情報交換を行い、サービス向上に努めている。	運営推進会議は、奇数月に開催している。会議では、利用者状況や行事、行事予定、空き状況等を報告している。身体拘束廃止委員会と感染症対策委員会も同時に行っている。利用者は、自由参加しており、利用者も含め話し合いを行っている。報告書を整備し保管している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や相談や気になることがあれば随時、市町村担当者に連絡して回答を得るようにしている。	介護認定更新申請は窓口で行い、その他の行政との連絡は電話やメール、FAXを利用している。地域包括支援センター職員が運営推進会議構成員として参加している。地域包括支援センターから入居相談がある等、行政と情報を共有し、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様様の状態や毎日の生活の流れを理解し、声かけをしながら見守りを行っており、玄関の施錠や身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束廃止委員会を運営推進会議と一体的に開催している。日中の玄関の施錠はしていない。利用者が外出を希望する際は必ず職員が付き添っている。虐待防止及び身体拘束廃止委員会は年に4回、研修は年に3回行っており、資料と報告書を整備し保管している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	職員、入居者がひとつの家族のようなアットホームな関係を築き、職員一人ひとりが自分の家族のように親しみが持てるような支援を行うように周知徹底している。また高齢者虐待防止法について定期的に研修を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修に参加して、施設内の職員に伝達している。入居者一人一人について必要性を協議している。現在補助人がついて入居者様が2名いる。	契約時に権利擁護の説明をしている。家族が利用を検討したり、内容について説明を希望された場合は、随時受付けている。玄関に権利擁護に関するパンフレットを設置している。現在数名が利用している。	職員に日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、権利擁護に関する制度の理解を深める事が大切と感じます。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営に関する理念をご家族様にお話して、不安点のない様に努め、又契約の締結、解除の際は契約書の内容を分かりやすいように説明して納得してもらった上での契約、解除を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者については、いつでも意見や不満、苦情が話せる雰囲気づくりを行っており、ご家族様には直接の苦情設置窓口を設けている。又、運営推進会議等で意見、不満、苦情を聞くようにしている。	ホールでの会話や居室内で、個別に一人ひとりの希望を聞いている。希望がある場合は申し送りノートに記載し、職員会議で報告している。口頭で伝えることもある。毎月利用者家族には、お便りの「かがやき便」を郵送して生活状況を報告している。家族が面会に来た時は、必ず職員が家族からの希望を聞き本人の状況を説明する等している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月のミーティングで意見交換の場を設け、運営に反映させている。	朝の申し送りで職員からの相談を聞いている。介護業務や勤務調整等、意見を聞く体制が出来ている。希望や要望がある場合は職員で話し合い、業務に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の職員一人一人の勤務状態や勤務態度等を正しく把握している。各自が自分の頭で考え行動でき、また働き甲斐のある職場になるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用は性別や年齢に左右されずに、その人の人間性や介護に対する考え方を重視して採用するようにしている。グループホームの連絡協議会に参加の機会を設け、本人の希望や意見を尊重するようにしている。	男女問わず雇用している。65歳が定年だが、再雇用は本人が継続する意欲と体力があれば働くことができる。特定技能実習生も受け入れている。職員から資格取得の希望がある場合は、勤務調整をする等、働きやすいよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月のミーティング等で入居者及び職員の人権について話し合い、意見交換している。定期的に権利擁護について勉強会を行っている。	年間研修計画を作成し研修を実施しており、「認知症介護について」の研修を開催し、研修資料と研修報告書を整備している。参加出来ない職員には伝達研修を実施し全員が学ぶようにしている。事務所内にマニュアルを整備しており、回覧して学んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための勤務的配慮を行っている。内部研修では、職員に処遇を通じてその都度勉強会を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームや施設と交流を持ち、連絡協議会に参加して勉強会等を行い、サービスの質の向上をはかっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人との面談を行い、気軽に何でも話せる関係作りに努めている。本人の趣味や嗜好を聴き取り支援につながるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちに寄り添い、また本人様の状態合わせ、その時に必要なサービスをまず優先するようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時から利用に至るまで、ご家族や本人様にホームに来てもらったりしているんな話をしながら必要な支援の提案を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な理由があり至った経緯を十分に把握し、グループホームの本質を理解していただき利用者様と共に支えあえる関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方々の気持ちに寄り添い、安心していただけるよう支援し、グループホームの本質を理解していただき一緒に利用者様を支えていくようにつとめている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親交があった人の住所録などを持ってきていただき、定期的に文通や電話などして連絡をとりあうようにしている。	面会は自由となっている。手紙のやり取り等職員が代筆する事も出来る。入居前に住んで居た自宅近隣をドライブすることも行っており、街並みや人との関係が途切れないよう支援している。携帯電話の持ち込みができ、必要に応じて事業所の電話を使用して友達と話することができるよう配慮している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間以外にもお茶の時間を利用して、できるだけ集ってもらい職員も一緒にお茶を飲みながら、皆で会話を楽しむようにしている。それで利用者様同士の会話がうまれ、利用者間の会話が増えた。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院などで契約が終了してしまった方でもお見舞いに行き、少しでも不安な気持ちを取り除けるようにして。ご家族の方には連絡を入れ、今後の相談やケアをし、手助けができる環境をつくり続けている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の意向を聞き、そのことに近づけるように職員が本人様に歩み寄るように職員に指導し、利用者様が「自分らしい」生活がおくれるように支援している。	利用者一人ひとりの性格を把握して、それぞれに合う対応している。対応する方法を皆で共有している。家に行きたいとの希望があれば、家の近くをドライブしたり、納骨堂にお参りに行きたいとの希望があれば職員が対応したりする等、できるだけ希望を叶えられるように支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、皆で過ごす時間も大事だが、各自の趣味の時間も作り、職員はその手助けをできるようつとめている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の変化や気になる点があれば職員が各自会議のときに出し合い、皆で解決改善に向かうように話し合い、これからの対応をその時々決めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様が「私らしく、安らかに、生き活きと」暮らしていけるケアプランをご本人中心とし、ご家族、ケア関係者、町の関係者で介護計画を作成している。	介護計画を6か月に1回、見直しており、その際にアセスメントも取り直している。家族には面会時や電話で意見や要望を聞きとり、計画に活かしている。また、かかりつけ医や職員の意見、気づきや思い等も反映した計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りによる記録の情報共有を行い、職員同士で工夫し、実践ができるようにしている。問題点に関しては話し合いを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	の乗せ降りの介助が難しいご家族の利用者が一時帰宅希望がでた場合など、送り迎え、その他のケアは職員が対応できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や区長からの情報提供や地域包括支援センター等や地域住民が手助けしていただき、いい関係を築くことができている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの医院と連携を組み、必要時には往診に来てもらえる関係にある。またご家族の方からもその医院への支持はあり、納得は得られている。	利用者や家族の意向に沿ってかかりつけ医を決めている。内科から月2回、精神科から月1回、歯科から週1回の往診がある。他科受診は、必要に応じて通院を支援し、救急時受診は職員が行い、家族が同行する場合は、病状説明を一緒に聞いている。同行できない家族には電話で受診内容を報告し、情報を共有している。かかりつけ医とは密に連携している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がいるため、常に話し合い健康管理や医療活用の支援につとめている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に利用者が不安にならぬようつとめ、退院時にはカンファレンスを行い、情報交換を確実にし、ホーム側は万全な受け入れ態勢で利用者が安全、安心でいられるように迎えている。また医療連携を行っている訪問看護事業所があり、随時訪問していただいている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については入所時に書面にて意向を確認している。またその時が来たら担当医や地域の関係者や訪問看護と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針については、利用開始時や状態変化があった場合に説明して、意向を確認している。看取りをするか病院に行くかは医師から十分な説明を受けた後、医師や訪問看護師、職員とも話し合い、家族の意向にできる限り沿って行うようにしている。状態が悪くなった時等は、すぐに訪問看護師に連絡が取れるよう体制を整えている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変についてはあらかじめ予測できるようなことは事前に周知して対応できるようにしている。また事故発生時に備えては定期的に実践力を身に付けられるように勉強会を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の災害に備えてのマニュアルは作成しているが、早期に避難訓練行う予定である。	年2回、日中と夜間の避難訓練を行っている。避難訓練の計画書と報告書を消防署に提出しているが、消防署の立ち合いはない。備蓄品は敷地内の倉庫に、食料や水を3日分準備しており、オムツやカセットコンロ等も準備している。	災害時は一人でも多く非難できる体制が必要と感じます。訓練も同様の取組みが求められるので、運営推進会議等で構成員はじめ地域住民に非常災害訓練の呼びかけを行ってほしい。また、消防署の協力を得て訓練を実施してほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人記録等の個人情報保護は鍵のかかる書棚に入れている。プライバシーに関することは本人の前では話さないようにしている。	面会は居室や事務所、玄関先で行い、他者に会話が聞こえないようにプライバシーに配慮している。排泄介助については、さりげない声掛けを行い、他者に気づかれぬようにしており、戸を閉めて対応している。プライバシー保護についての研修を毎年行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に不安を与えないように説明を行い、自己決定できるように声がけしながら支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なにをするにも必ず一度本人様の意向を聞き、そのことに近づくように職員が本人様に歩み寄るように指導し、「自分らしい生活」が出来るよう支援している。入居者様一人ひとりの生活パターンに合わせ一日が楽しく過ごせるように心掛けながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の希望に応じて職員がおしゃれの支援をしている。美容室へは本人又は家族の希望の店に連れて行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器等の準備や片付けは、なるべく一緒に行っている。入居者様に食べたい物等聞いて献立を考えている。	献立や食材の買い物、調理全てを職員が行っている。利用者の希望を献立に取り入れ、最近では、焼きそばやちゃんぽんを献立取り入れた。食材は、近くの道の駅等で新鮮な旬の食材を購入して、旬を楽しめるようにしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりの食べる量、水分摂取量、栄養バランスは毎日の記録に残して必要量の確保ができるようにしている。喉の渇きを本人が訴える前にこまめに水分補給をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯の洗浄等の口腔ケアを行い、一人ひとりの口腔状態に応じた支援をしている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合った排泄方法を見極め、最初からトイレでの排泄は出来ないと決めてしまわずに、オムツの使用を減らし、可能な限りトイレで用を足す支援や気持ちよく排泄するための工夫を行っています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情やしぐさのサインを職員間で共有し、状況に応じたトイレ誘導やオムツ交換を行っている。排泄の際には、プライバシーに配慮して支援している。また、歩いていける利用者は日中トイレ誘導を行い、夜間のみポータブルトイレを使用したり、オムツやパットを使用している方には、状態に合わせて変更したりして、自立に向けた排泄支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の人には繊維質の多いもの食事に取り入れたりしている。又職員と一緒に散歩に出かけたり、ホーム内での運動を行うようにしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日等は一応決めているが、本人の希望やタイミング及び健康状態に応じて基本的にはいつでも入浴できるように支援している。	毎日入浴できる準備をしており、一人週3回を目安に入浴支援をしている。入浴を好まない方には、職員や言葉かけを変えたりして、無理強いせず、翌日に入浴する等柔軟な対応を行っている。シャワー浴の利用者には、足湯に入浴剤を入れ楽しめるよう配慮している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し布団干し等を行い、気持ちよく眠れるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容については、ファイルに関してひと目で内容が分かるようしており、職員は誰がどんな薬を服薬しているか把握するように徹底してい		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事計画を作成して、入居者様に見ていただき生活目標やメリハリをつくようになっている。趣味特技を生かした楽しみを持っていただく。行事計画以外にも定期的に買物やドライブ、ハイキングに行くようになっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買物、また市民センターや公民館での地域の方々との交流会を行い、本人の希望に沿って買いもの等に出かけています。	外出する利用者は少ないが、月に2回程度は散歩に出かけている。6か月に1回は、花見ドライブに行き、その際に外食をする等楽しめるようにしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に職員と出かけたりして自分の欲しいものが買えるように、お金の認識ができる方には支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人が直接、普段来られない親戚の方と話せるようにとりつぎを行っている。入居者一人ひとりの希望に合わせていろいろなやり取りができるように支援している。また遠方の家族に手紙を書いてもらって送付している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はテレビや食器の音に配慮して、その季節の草花を居室や談話室等に置いて居心地良く過ごせるように工夫している。	共用空間は、穏やかな自然光が差し込み、落ち着いた開放感のある空間となっている。居間の壁面には入居者と一緒に作成した季節の作品が飾られ、四季が感じられるようになっている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室のソファで気のあった物同士で過ごされたりしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者様が寛げて、なおかつ穏やかに過ごせるように、なじみの家具や小物を自宅から持参していただくようになっている。また昔の家族写真等を貼っている。	ベッドやタンス、クローゼットは備え付けられている。家族写真や好みの飾り物が飾られている。また、馴染みのあるテーブルや椅子、CDデッキ等が持ち込まれており、落ち着いて過ごせる空間になっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人での歩行が可能な方はなるべく一人で歩くようにしてもらっているが、その時も転倒が考えられるため必ず見守りは行うようにしている。また歩行器を使用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)				①ほぼ全ての利用者の
						②利用者の2/3くらいの
						③利用者の1/3くらいの
						④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)				①毎日ある
						②数日に1回程度ある
						③たまにある
						④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)				①ほぼ全ての利用者が
						②利用者の2/3くらいが
						③利用者の1/3くらいが
						④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)				①ほぼ全ての利用者が
						②利用者の2/3くらいが
						③利用者の1/3くらいが
						④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)				①ほぼ全ての利用者が
						②利用者の2/3くらいが
						③利用者の1/3くらいが
						④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)				①ほぼ全ての利用者が
						②利用者の2/3くらいが
						③利用者の1/3くらいが
						④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)				①ほぼ全ての利用者が
						②利用者の2/3くらいが
						③利用者の1/3くらいが
						④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)				①ほぼ全ての家族と
						②家族の2/3くらいと
						③家族の1/3くらいと
						④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)				①ほぼ毎日のようにある
						②数日に1回程度ある
						③たまにある
						④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)				①大いに増えている
						②少しずつ増えている
						③あまり増えていない
						④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)				①ほぼ全ての職員が
						②職員の2/3くらいが
						③職員の1/3くらいが
						④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。				①ほぼ全ての利用者が
						②利用者の2/3くらいが
						③利用者の1/3くらいが
						④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。				①ほぼ全ての家族等が
						②家族等の2/3くらいが
						③家族等の1/3くらいが
						④ほとんどいない